

県酪だより

K E N R A K U D A Y O R I

2022

1

vol.289



年頭の挨拶

福島県酪農業協同組合

代表理事組合長

紺野

宏



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、組合事業にご支援・ご協力を頂いておりますことに対して、厚く御礼申し上げます。

昨年は、春先に新型コロナウイルス感染症の第五波が発生、感染者数が激増し、全国において緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発せられました。世界的な出入国規制が実施され、日本経済に大きな影響を与えました。このようなコロナ禍によつて分断された世界において、パンデミック後の初めてのグローバルイベントとして、一年遅れの東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。

競技会場は、ほぼ無観客の状態でした。が、テレビ画面を通してアスリートたちの一挙一動を多くの国民が、固唾をのんで見つめていたのではないのでしょうか。

さて、昨年の酪農業界においては、生産基盤対策効果や

凌ぎ易い夏だったこともあり牛へのダメージも少なく生乳生産が前年以上に好調に推移しました。一方で、夏場以降の長雨・低温等の天候による飲用消費は不振を極め、生乳の最需要期の九月においても都府県で一万吨を超える加工向けが発生するまでになりました。さらに、インパウンド需要の喪失や飲食店・観光地の休業等により業務用乳製品を始めとする牛乳等の需要減少状態が、常態化してしまいました。

結果として脱脂粉乳とバター期末在庫量は、国や北海道の拠出金等で輸入品との置き換えを実施しても七ヶ月程度と非常に重い在庫に積みあがっています。今後も引き続き酪農業一体となった処理不可能乳発生回避と乳製品在庫削減対策等を行っていくかねければなりません。

酪農経営においては、好調な生乳生産を揺るがしかねない状況が続いています。燃油の高止まりと配合飼料や輸入粗飼料の高騰、さらに輸入コンテナ船の遅延による資材の入手困難は、日々の生産活動を直撃し経営状況は厳しさを増すばかりです。日本酪農政治連盟福島県支部連合会と歩調を合わせ、家族型経営を守る対策を講じてまいります。

平成二十三年三月十一日の東日本大震災並びに東電原発事故から十年十ヶ月が経過しました。以前より、浜通りにおいて被災地域農業復興総合支援事業による避難指示解除地域での復興牧場建設に取り組んできま

した。建設予定地が二転三転しましたが、昨年六月に浪江町において事業実施に向けた事業連携協定を町・全酪連・県酪農協の三者にて締結することができました。今後は、令和七年の牧場の本格稼働に向け「復興牧場事業運営の体制」作りとして、復興牧場設立準備室を設置し併せて浪江町へ職員を駐在させ、事業入札など町と連携を密に事業推進に当たってまいります。引き続き、福島県酪農の復興・生産基盤の確立を目指し邁進してまいります。

一方、休業中の四十九戸の酪農家においては、高齢化や避難先での酪農外の仕事に従事するなど、地元帰還や営業再開は、先の見えない状況でした。しかし、浪江町での復興牧場建設が、現実味を帯びてきたことにより直接・間接的に関わってくださる方々が出てきました。

昨年、事業方針の基本となる「福島県酪農協・酪農ビジョンⅡ」の初年度として第八次中期経営三ヶ年計画を策定いたしました。「十年先を見据えた組織機構と事業体制の構築」を受けて七月には、組織機構を変更しました。職員と業務を本所に集約し、組合員に対し職員一丸となつて取り

組む体制にしました。さらに、長年の懸念事項でした本所建屋の防災対策として高床式事務所を増築しました。

昨年十月には、グループ企業である酪王乳業(株)とJ A全農子会社の東北協同乳業が、新設合併し「酪王協同乳業(株)」となりました。広く県内酪農家の生乳の受け入れ先となり、これまで以上に福島県民に愛される牛乳・乳製品作りに寄与し、同じ子会社の(株)らくのう乳販共々連携を密にし、将来にわたり組合員の

新年を迎えて

福島県農林水産部

部長



小柴 宏幸



負託に応え得る組織として積極的に事業を展開する所存です。

結びに、本年はまだまだ新型コロナウイルス対策に明け暮れることになるかも知れませんが、地道に突き進むことで福島県酪農の新たな発展へと繋げていける年にしてまいりたいと存じます。

組合員皆様、ご家族皆様にとつて幸多い年でありますこととお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。

いただき、厚く御礼申し上げます。

また、組合員の皆様には、愛情を持って乳用牛の飼養管理をされ、日夜細心の注意を払いながら生乳生産に取り組みまれており、そのためまぬ御努力に心から敬意を表します。

さて、東日本大震災から十余年の年月が経過いたしました。が、これまでの間、本県酪農業の復興・再生は、皆様の

懸命な御尽力により、避難指示解除地域における営農再開や復興牧場の整備など、着実に進んでまいりました。

特に昨年は、浪江町における酪農復興事業推進に向けた連携協定の締結や、酪王乳業株式会社と東北協同乳業株式会社の合併による酪王協同乳業株式会社の新設など、生産基盤の強化や生乳流通の合理化に向けて大きく前進した年でありました。

一方で、酪農をめぐる環境は、輸入飼料価格の高騰や次世代を担う後継者等の不足などに加え、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、季節的な生乳需給バランスの不安定さに拍車がかかるなど厳しさを増しており、牛乳・乳製品の安定供給に向け、牛群の改良や経営規模の拡大、飼料自給率の向上などに、関係者一同がさらに連携を密にして、一丸となつて取り組んでいく必要があります。

貴組合におかれましては、基幹酪農生産者団体として酪農家の経営安定と生乳の安定生産に向けてリーダーシップを存分に発揮されるところにも、組合員の皆様には、安全で高品質な福島県産牛乳の安定供給を通じた、県民の食と

健康の維持・向上に、一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

県といたしまして、令和四年度から十二年度までを計画期間とする新しい「福島県農林水産業振興計画」に掲げた、「『もうかる』『誇れる』」共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村の実現に向けて、皆様と力を合わせ、優良な乳用雌牛の安定確保や経営規模拡大はもとより、担い手の確保・育成等の人材面での取組を推進し、持続的に発展可能な酪農生産体系の確立を進めていく所存であります。

結びに、福島県酪農協同組合の今後益々の御発展と、組合員の皆様の御健勝と御活躍を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のご挨拶

日本酪農政治連盟福島県支部連合会

会 長

木目澤 次 男



輝かしい令和四年の新春にあたり、心から御祝いを申し上げます。

会員の皆様には常日頃から温かい御支援・御理解のもと酪農政治連盟活動に御協力をいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

昨年十月に行われました衆議院選挙におきましては、組織が推薦を決定いたしました五名の方々がすべて当選されましたことに御礼を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染者が世界全体で2億人を超える状況であり、緊急事態宣言や出入国規制が実施される中で、前年夏の開催日程から延期となった東京オリンピック及びパラリンピックが開催され、無観客での開催ではありましたが無事に開催することができました。国内で



のコロナウイルスのワクチン接種も計画的に行われ、感染者数も少なくなった状況であります。本県では昨年二月十三日に福島県沖を震源として発生したマグニチュード七・三の地震で最大震度六強を観測し、建物の倒壊など甚大な被害をもたらしました。ここに被害を受けた方に対して衷心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス禍による業務用需要の減少が長期化し、脱脂粉乳在庫が積み上がったおり輸入調製品との置き換え等による在庫削減が酪農乳業界では大きな課題であります。酪農経営においては、輸入粗飼料の高騰と品不足並びに配合飼料の高値で推移しており、生乳生産コストの大幅な上昇となっております。

日本酪農政治連盟としては、十一月二十五日に中央委員会で決定した内容に基づき、生産者意欲を損なわない加工原料乳補給金や集送乳調整金の単価設定や国内の需給状況を考慮した適切な総交付対策対象数量の設定の他、脱粉・パターの在庫削減対策等を要請

いたしました。

令和四年度の酪農対策等の政策の実行につきましては、政府原案といたしまして、加工原料乳生産者補給金制度に基づく交付単価は一キロあたり十円八十五銭とし昨年と同額で決着いたしました。内訳といたしましては加工原料乳生産者補給金は八円二十六銭

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会

支 所 長

蒲 田 泰 介



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より弊会の各種事業への格別なるご高配、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年も一昨年に続き、新型コロナウイルスの影響を受けた年となりました。

年末に向かい国内の感染者数は激減いたしました。海外では感染者が増加している国もあり、引き続き予断を許さない状況が続いております。

で、条件不利地域からの集送乳経費を助成する「集送乳調整金」は二円五十九銭となります。

最後になりますが、会員皆様にとりまして、すばらしい一年でありますことを祈念いたしまして新年のご挨拶いたします。



す。

酪農・乳業界への影響も大きく、生乳をめぐる需給状況は、果ごもり需要やインバウンド消費の減少などにより日々めまぐるしく変化しており、直近では大幅な緩和が続く、乳製品在庫の更なる積み増しが懸念されております。

この様な状況から関係団体が団結し、打開に向けて取り組んでいるところでございます。

私ども全酪連といたしましては、昨年十一月十八日からグループの職員全体で、牛乳・乳製品の消費拡大活動を展開しております。皆さんが丹精込めて出荷して下さいった牛乳

を、普段より多く、楽しく消費して行ければとの思いからこのようなアクションを起こしました。

この活動が全国の関係団体・関係者に広まり、一般消費者にも波及することが出来れば、牛乳消費拡大に繋がる一助になるのではないかと期待しております。

今後とも生産者の皆様に安心して生乳を生産していただくよう、直面する課題のひとつひとつを解決し、この厳しい局面を乗り越えるよう貴組合と一体となつて取り組んで参ります。

思い起こせば昨年は、六月に浪江町復興牧場の調印式、十月には酪王協同乳業株式会社の誕生など、貴組合にとつて大きな節目の年となったのではないのでしょうか。

また、十二月には新事務所が竣工され、職員の皆様も大きな節目とともに新たな決意を持たれていることと思えます。

全酪連も皆様とともに、福島県の酪農を盛り上げるべく今後とも取り組んで参ります。

最後になりますが、福島県酪農業協同組合のご発展と組合員の皆様、ご家族の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

福島県酪農業協同組合本所増築事務所 竣工式・引き渡し式が行われる

12月10日(金)に、福島県酪農業協同組合本所増築事務所に完成し、竣工式及び引き渡し式が行われました。当日は、神事として斎主を長屋神社 宮司 小松中氏、をお招きし、その他、施工業者、関連会社、三役及び管理職員が出席して式を執り行いました。

神事を執り行った後、引き渡し式を執り行い、紺野組合長より施工業者を代表し、光建設株式会社、株式会社共立建築設計事務所へ感謝状の進呈を行いました。また、光建設 吉田社長様からは組合に記念品を頂きました。



7月から工事を開始し、大きな気候変動もなく工事は計画通りに行われ、遅れることなく予定通り完成しました。

年内に引越し作業を行い、12月20日より順次業務を開始しております。今後も組合員の負託に応えるよう、職員一同、気持ちも新たに仕事をいたします。



FD24会 新旧役員引継ぎ慰労会を開催

12月3日、郡山市にある割烹らん亭 美日庵にてFD24会（会長・中野目正明）の新旧役員引継ぎ慰労会を開催しました。

先ず初めに中野目会長より挨拶を頂き、出席者については総勢10名となりました。

次に旧役員紹介として、県中の佐藤弘永さんについては令和元年度から2年度まで会長を1期、県南の鈴木明彦さんについては平成29年度から令和2年度まで理事を2期務めて頂きました。本当にありがとうございました。

また、懇親会前に事務局より案内を行い、来年度からのFD24会については組織振興室に移行する事をお伝えしました。

懇親会は、遠藤明副会長から乾杯の発声を頂き、それぞれ時間の許す限り近況報告や情報交換を行い、懇親を深めながら終了いたしました。

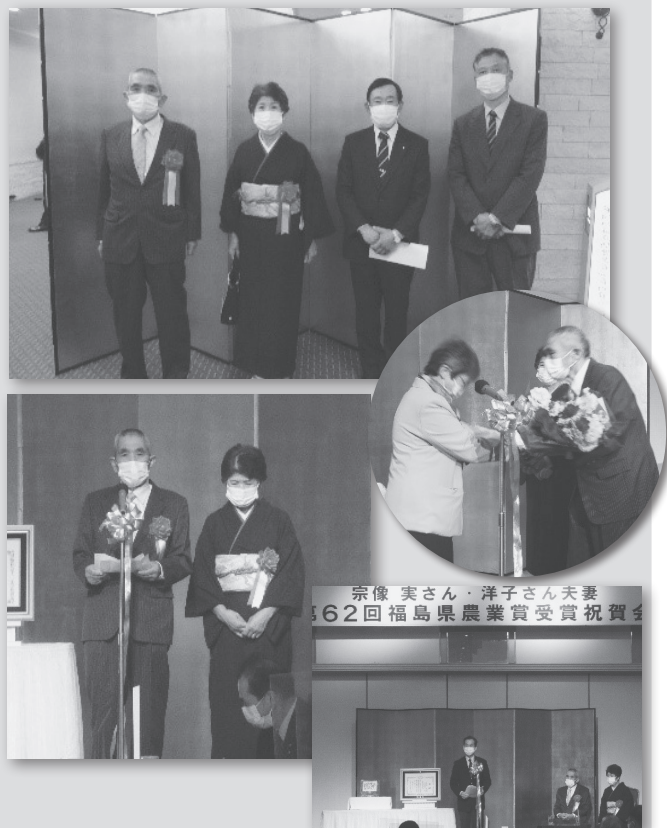


宗像実さん・洋子さん夫妻 第62回福島県農業賞受賞祝賀会

去る9月3日、内堀福島県知事より受賞されました「第62回福島県農業賞」を祝し、12月2日(木)11時より、郡山ビューホテルアネックス「花勝見」に於いて祝賀会が開催されました。

祝賀会に先立ち、発起人代表であり福島県酪農協理事でもあります味戸一浩さんよりご挨拶があり、福島県酪農協紺野組合長様、県中農林事務所長家久来様よりご祝辞を頂き、花束贈呈、記念品贈呈、そして宗像実さん・洋子さんご本人様より謝辞があり、福島県酪農協前理事の大方さんのご発声で乾杯となり、和やかなご歓談の時間が過ぎました。最後に地元同志でもある植田さんに閉会のご挨拶を頂き、閉会となりました。

昨今のコロナ禍での開催は、郡山ビューホテルアネックスのスタッフの皆様の感染防止対策が万全だからこそ、安心して最後までやりきる事が出来ました。深く感謝申し上げます。



相馬農業高校生 ミネロファームに来たる！

令和3年11月9日(火)少し冷たい雨の降る中、相馬農業高校生産環境科生産技術コース2年生8名がミネロファームへ視察に来てくれました。コロナ禍においてしばらく視察を受入しておりませんでしたので、久しぶりの来訪者となりました。

敷地内を案内し、搾乳体験、飼料給餌を体験してもらい、中には、牛が怖いと言って搾乳体験をしない学生さんも…

相馬農業高校は乳牛を飼養していないとのことで、乳牛を初めて見る学生もありました。

しかしながら、今後の農業、酪農を担っていただきたく、浜通りに建設予定である復興牧場のPRもさせていただきました。

これを機会にちょっとでも、乳牛、酪農に興味をもってくれたら嬉しいです。



県中酪農研究会視察研修会を開催しました！

令和3年12月6日(月)に県中・田村小野・会津方部合同で県中酪農研究会視察研修会を開催いたしました。視察は鏡石町の「株式会社 菅家牧場」で行われました。

㈱菅家牧場は令和3年度に牛舎を増改築し、経産牛頭数を約70頭に増頭しました。搾乳はヘリングボーンパーラーで行われており、パーラーの通路中央には乳頭洗浄機が2台取り付けられていました。牛舎はフリーバーン牛舎で2群に分けて管理されています。また、デントコーンと大麦の二毛作も行っており、参加者の方と自給飼料についての話で盛り上がっていました。



今回の視察研修会はコロナ禍ということもあったため、感染対策を講じつつ1時間半ほどの視察となりました。限られた時間の中での視察ではありましたが、とても有意義な時間になったと思います。お忙しい中快く視察を受け入れていただいた㈱菅家牧場の代表 菅家信也さんには改めて感謝申し上げます。

～集乳業務研修会を開催～

らくのう乳販並びに酪王協同乳業の協力のもと、集乳業務研修会を開催しました。8名の職員が参加し、県内6コースを5日間に分けて集乳車に同乗する形で行われました。

そもそも、集乳時の風景は見かけたことがあるが、一貫して業務を知る機会が少ないとの要望を受け企画した研修会であり、配分検査のサンプル採取方法やバルクから郡山CSに受け入れられるまでの一連の流れを運転手に同行することにより、生乳検査体制と集乳業務の理解度を深め、職員並びに集乳者相互のスキルアップへ繋げることを目的としたため、座学型ではなく体験型研修で進めました。

組合員の皆様方の大事な生乳をお預かりする集乳業務の重要性と、ミルクサプライチェーンの一端を担う専門農協職員としての立ち位置を再認識できる有意義な研修会となりました。今後も定期的開催してまいります。

令和3年度 ゲノミック研修会 開催



今年度、組合奨励事業でゲノミック検査に対する助成をしておりますが、その一環として、ゲノミック検査に関する研修会を令和3年12月1日(水)に実施致しました。

講師は、株式会社 野澤組 畜産部 条咲良さん、太田光博さんをお願いし、21名の方が参加しました。

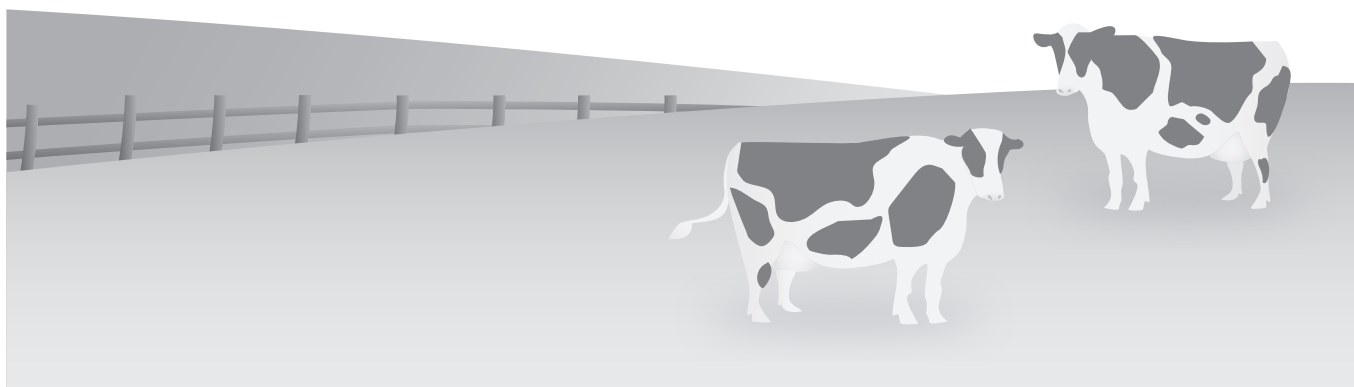
今回の研修会では、ゲノミック検査とは何かという基本的なことから、海外の検査機関毎の特徴について講演いただきました。

遺伝的な要因が30%、環境的な要因が70%の割合で牛の能力が決まっております。どんなに能力が高い牛でも飼養環境が大きく影響してくることは明らかではありますが、牛の個体能力を最大限生かし、自分の酪農経営に合った遺伝的な改良を少しでも行う為のツールとして利用していただきたいと思います。

近年では、近交係数が高まり、乳量低下、空胎日数増加、早期胚死滅などが現れやすくなっております。交配種雄牛の選定にも活用することができますので、ぜひご活用ください。

当組合では、3通りのゲノミック検査を取り扱っており、日本国内で検査を行うSNP検査（家畜改良事業団）と海外の検査機関で検査を行うもの2種類（海外の検査機関は2つ。どちらも㈱野澤組を通して検査を行う）があります。詳細については、組織振興室まで問い合わせください。

今後もゲノミック研修会を実施していく予定ですので、ぜひご参加ください。



令和4年1～3月の牛用飼料価格について

令和3年度第4四半期（令和4年1月～3月）の牛用飼料（配合・哺育）につきまして、下記のとおり価格改定を致しますのでご案内申し上げます。

記

改定額（令和3年10～12月期対比）

- (1) 牛用配合飼料 トン当たり 2,900円値上げ
- (2) 牛用哺育飼料 トン当たり 19,000円値上げ

原料情勢等につきましては、以下のとおりです。

主原料である米国産とうもろこしは、12月9日米国農務省の需給予想において2021年産の生産量は3億8,259万トン・前年比106.7%、単収は177ブッシェル／エーカー、総需要量3億7,670万トン、期末在庫3,792万トン、在庫率10.07%と発表されました。

米国産の収穫は順調に進捗しているものの、中国向け輸出が好調なことから、原油高に伴うエタノール向け需要が堅調なことから、相場は底堅く推移しています。

大豆粕については、米国産大豆の中国向け輸出が順調なためシカゴ大豆相場は底堅く推移しており、また、為替相場が円安基調であることから、相場は堅調に推移しています。

糟糠類については、グルテンフィードはスターチメーカーの稼働が引続き低調で、需給が非常に逼迫しているため、相場は高騰しています。また、ふすまについても小麦粉挽砕量が引続き低調なことから、相場は底堅く推移しています。

脱脂粉乳については、欧米における国内需要の回復と、中国の引き合いが依然として強いことから、相場は堅調に推移しています。

海上運賃は、コロナ禍で湾岸荷役が遅延し、滞船が相次いでおり、船腹供給量が逼迫していることから堅調に推移しています。

為替相場は、米国の景気回復に伴う金融緩和政策縮小観測から日米金利差は拡大傾向にあり、前期と比較して円安・ドル高基調で推移しています。

以 上





全酪連の小窓 1月号 ～分娩時の管理～

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
 新年一発目ということで、2022年を事故なく始められるように、今回は子牛に注目した分娩時の管理についてお話したいと思います！
 いいスタートダッシュを切っていきましょう！！

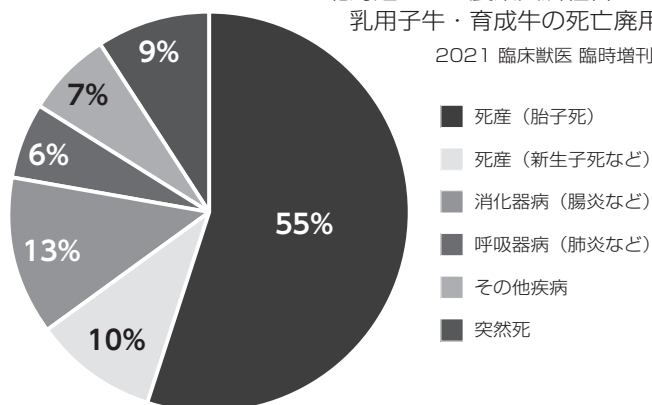
◎事故死予防の重要性

子牛の観点から見た分娩時の管理は、死産を無くすることが重要です。死産は子牛の死亡廃用事故多くを占め、国内外で最も大きな死亡原因となっています。横図は、子・育成牛の死亡廃用の内訳となっています。

死産は主に感染により起こる流産・早産と、分娩時まで胎子が生存している事故死に分けられます。今回は後者の事故死について説明していきます。

死産の原因は大まかに、母牛要因、子牛要因、環境要因、人為的要因に分けられます。

北海道ひがし農業共済組合における
乳用子牛・育成牛の死亡廃用状況
2021 臨床獣医 臨時増刊号より



◎母牛要因

初産牛では、まだ体が成長途中で胎児が通過するのに十分な産道の広さがない場合、難産になりやすくなります。そのため育成牛の授精は分娩に適する体格に成長していることを条件に実施することが必要です。

経産牛では、乳熱を発症しやすく、陣痛が弱いなど正常な分娩過程ではない場合があります。また自然分娩が難しい場合、胎子が活着しているうちに摘出しなければならないため、正常産の一連の流れを把握し異常産を見分ける必要があります。

母牛の栄養状態が悪い場合、虚弱子牛症候群という新生子の筋力が悪い、うまく呼吸できないなどで死産となるケースが発生する可能性があります。そのため胎子に十分な栄養が行きわたるような母牛の飼養管理が重要です。

また、分娩予定日近くに母体に感染した病原体（ウイルス、細菌、寄生虫）が血液や胎水を介して胎子に移行し死産する場合があるので感染症のコントロールは重要になります。

ZENRAKUREN



◎子牛要因

双胎は早産になりやすく、予定にない分娩となるため死産が多くなります。妊娠末期の母牛の外見から双胎を判断することは難しく、分娩後90日までの超音波検査による妊娠鑑定の際に、卵巣に黄体が2つあることなど双胎の可能性を事前に把握、また予定日より早い分娩など双胎を疑った場合には、胎子娩出の後に産道に手を入れ2子目の有無を確認する必要があります。

胎位に関しても、尾位は頭位より死産しやすくなります。尾位での産道通過は、胎子の体形が逆三角形となるので被毛の流れと逆になり摩擦抵抗が大きくなります。加えて、臍帯の圧迫や断裂により胎子の窒息も起こりやすくなります。

◎環境要因



あったかーい

死産子牛では、肺の形状や色調を観察することで、娩出後に自発的に呼吸したかどうかを知ることができます。呼吸していた肺は実質に空気を含み膨らんでいて淡いピンク色をしています。一方、呼吸していなかった肺では膨らみのない無気肺で茶褐色に観察されます。

北海道釧路管内において、冬季は夏季に比べ自発呼吸の痕跡がある個体が多くなりました。その原因として、自発呼吸があったにも関わらず虚弱な新生子であった場合、北海道のような寒冷地域では畜主が気付く前に寒冷死してしまうためだと考えられます。**寒冷となるこの時期には、特に分娩環境を整え、注意深く観察することが重要です。**

◎人為的要因



人為的要因の1つ目は誤嚥性肺炎の発症です。気管や肺に胎水が流出した状態で娩出されることで発生します。これは胎子が娩出されるべきタイミングでスムーズに産まれることができなかったことが原因となります。死産が起こりやすい時間帯は深夜から早朝にかけてなので、**夜間の巡回や監視カメラの設置などや、分娩前は母牛の体温が下がることが知られているので体温測定による分娩の予測が有効です。**

また、分娩予定日の確認も重要となります。複数回授精の場合、どの授精日で受胎しているのか、胎子の大きさを考慮した妊鑑が必要となります。**受精卵移植の場合、受精卵の移植日は発情から1週間ほど経過しているので、人工授精と区別して分娩予定日を計算しなくてはなりません。**

◎分娩環境について

寒冷時期では外気温を考慮する必要があるので、以下の点に気を付けてください。

- ・ 外気をシャットアウトできる室内での分娩であること
- ・ 敷料が十分に準備され新生子牛が糞尿で濡れない環境であること
- ・ 新生子牛の被毛の水分をよく拭き取り、素早く身体を温められる準備ができていること



給与方法や給餌メニューでご不明な点がございましたら、全酪連スタッフや福島県酪職員へご相談ください！

指導推進課コラム

1月

TMRの物理性を考える～セパレーターの活用方法～

先月号まではTMRについて、おおまかな飼料特性やメリット・デメリット、分離給与における活用法などを説明しました。今月号からは、TMRという飼料の物理性についてさらに深掘していききたいと思います。

飼料における物理性

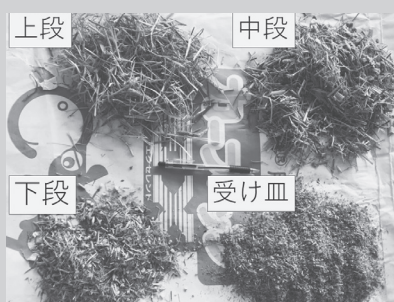
乳牛の飼料を語る上で、成分値だけではなく物理性という要因がとて重要になってきます。非常に良い成分の牧草を収穫できても、切断長が長ければ牛の喰いは下がりますし、成分は良好でも流動食のような餌を仮に給与すれば反芻をしなくなり、牛は健康を保てなくなります。TMRにおいても物理性とはとても重要なファクターで、攪拌の具合や切断長等牛の健康のために検討する項目はたくさんあります。

セパレーターでTMRの物理性をチェック

以前、物理的有効繊維について説明した回（2020年11月号）にて紹介しましたが、TMRの物理性を確認するための道具にセパレーターという道具があります（写真1）。セパレーターは4段のふるいから成っており（上段・中段・下段・受け皿）、TMRをふるいにかけることによって各段の割合（粒度分布）を計測することが可能です（写真2）。セパレーターの結果からは様々なことが分かりますが、今月号はそこから1つの使用法を実際に現場での事例も合わせて説明したいと思います。



セパレーター（写真1）

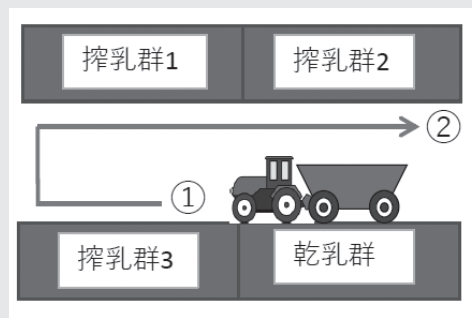


4段のフルイにそれぞれ残った飼料（写真2）
 上段：粗飼料
 中段：粗飼料＋ペレット＋フレーク
 下段：短い粗飼料＋麦米等
 受け皿：配合等の粉類
 上記のような飼料が各段に残ります。

TMRの各地点ごとの斉一性を確認する

先月号でお話しました通り、TMRは牛群に均一な飼料を給与できることを大きなメリットに持つ飼料です。しかしミキサーでの攪拌作業に問題がある場合（攪拌時間が長い、短い等）、TMRの排出開始地点から排出終了地点にかけて、ばらつきのあるTMRになってしまいます。こういった場合にセパレーターを用いることで、どれほどの誤差があるのか数字で確認し、改善策を講じることができます。

・実際に現場であった事例



当牧場では①から②にかけてTMRを排出しています。①と②の2点でセパレーターをかけたところ、①に比べ②地点の上段割合が多くなる結果となりました（表1）。この場合、搾乳群2は搾乳群3に比べガサが多く栄養濃度の薄いTMRを採食している可能性が考えられ、全頭に均一なTMRを給与しているとは言えません。

○改善策

当牧場では攪拌時間長めに設定しており、攪拌の時間が長いために粗飼料が攪拌中にミキサー内で浮いてきていたことから、試しに攪拌時間を短縮したところ、①から②にかけて上段割合の差が縮まりました（表2）。

表1：改善前

フルイ	採取点①	採取点②
上段	10%	15%
中段	32%	31%
下段	15%	13%
受け皿	43%	41%

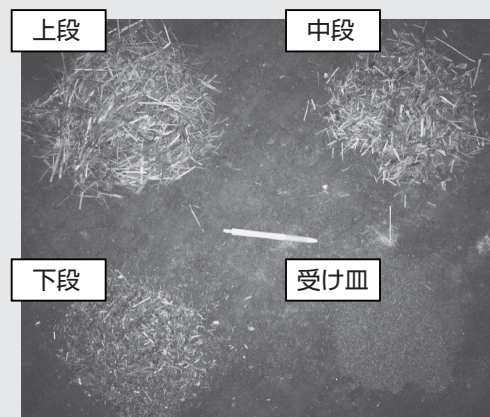
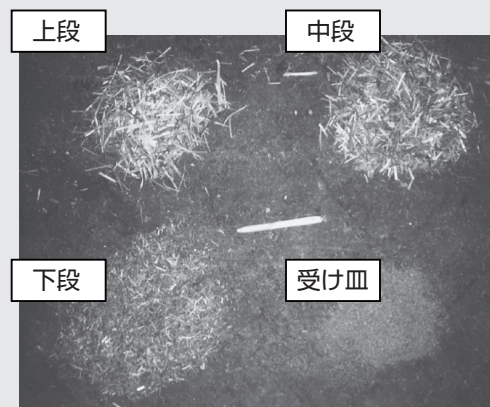
採取点②改善前写真
上段割合の多さが気になります

表2：改善後（攪拌時間を短縮）

フルイ	採取点①	採取点②
上段	10%	11%
中段	32%	34%
下段	15%	13%
受け皿	43%	42%

採取点②改善後写真
改善前の写真に比べ上段割合の減少が見てわかります

改善前の採取点②上段割合から
5%減少しました。

上記のケースについては、ミキサーの過攪拌によって上段割合に差が生じていましたが、牧場によって抱える問題は当然異なります。自身の牧場で製造されているTMRが均一に攪拌され、狙った牛群に均一に給与されているのかを確認したいという場合は指導推進課までご相談ください。

今回はセパレーターを用いたTMRの物理性改善の一例を説明いたしました。次月以降もセパレーターを用いたTMRの物理性改善方法について説明していきたいと考えています。今月もありがとうございました。

ZENOAQ コーナー Vol.205



乳房炎の痛みについて 考えてみましょう【前編】

〒963-0196

福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1

日本全薬工業(株) 福島営業所

TEL024-945-2306 FAX024-945-9345



乳牛を飼育している人で「乳房炎」を知らない人はいないと思います。それくらい乳房炎は日常的にみられる有名な病気です。農林水産省が発表した2018年度の家畜共済統計では、乳牛の病傷事故は合計1,317,982件で、乳房炎はその内366,710件となっており、全体の約28%を占めていました。この傾向は、2016年に乳房炎のワクチンが発売され、また、飼養管理や衛生管理の向上が日々図られているにもかかわらず、あまり変化はありません。

乳房炎について改めて考えてみましょう。乳房炎は、主に乳房の中に病原微生物(病気の原因となる菌等)が侵入して定着することによって生じる病気です。

感染方法によって「伝染性乳房炎」と「環境性乳房炎」に大別されます。伝染性乳房炎は搾乳時に搾乳者の手指や搾乳器具を介して感染が広がる乳房炎で、環境性乳房炎はベッドなど飼養環境に存在する病原微生物が感染することで生じる乳房炎ですが、どちらも病原微生物が乳頭口から乳房に侵入し、乳管系や乳腺組織を障害するという点では同じで、乳汁の合成機能が阻害されて乳量が減少し、乳質も悪化します。農家さんにとっては生産性に大きなダメージが生じますので、乳房炎はなくなるに越したことはないでしょう。

乳房炎は文字通り炎症を伴う病気です。炎症とは、組織に障害が起こったときに、その原因および障害された組織を排除して体を守るための反応で、生体にとってとても重要な機能です。乳房炎の場合は、病原微生物と障害された乳管系や乳腺組織を排除します。その際、「疼痛」「発熱」「発赤」「腫脹」といった臨床症状を伴うため、これを「臨床型乳房炎」と呼びます。一方、軽度な乳房炎では臨床症状を伴わないこともあり、これを「潜在性乳房炎(乳汁中の体細胞数のみが増加している乳房炎)」と呼びます。(「牛乳房炎抗菌剤治療ガイドブック」および「酪農ジャーナルPLUS+」より抜粋)

人間のお母さんには「化膿性乳腺炎」という病気があります。出産後の授乳期間に起こる乳房の病気で、赤ちゃんが母乳を吸う際に、赤ちゃんの口を介して細菌(主に黄色ブドウ球菌)が感染して、乳房の組織に炎症を起こします。乳房は赤く腫れ、熱を持ち、痛みを伴います。その痛みは乳房を針で突き刺されるような強烈な痛みだと表現される方も…。38℃以上の高熱が続くこともあるようで、かなりつらく、寝込んでしまったり、授乳をやめたいと思ったりしてしまうお母さんもいらっしゃるそうです。出産を経験したお母さんたちがこんなにも苦しむなんて、乳腺炎がいかに大変な病気なのか、想像するだけでも恐ろしいです。この記事を読んでもらっているお母さんの中にも、乳腺炎にかかって苦しんだ経験をお持ちの方がいらっしゃるかもしれませんね。

牛も同じじゃないでしょうか。臨床症状を伴う乳房炎は、痛いしつらいはずです。先述のとおり、炎症は生体にとって必要な反応ですが、行き過ぎた炎症はコントロールしてあげなければなりません。

今回は乳房炎牛の痛みと対策についてお話しします。

1月号はベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社
池田恵子様からの情報を掲載いたしました

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

令和3年11月30日現在

地 区	酪農家戸数			乳 牛 頭 数									
	戸数	前年度 戸 数	前年比	育成	初妊	経 産 牛				合計	前年度 頭 数	前年比	1 戸当 り頭数
						乾乳 妊娠	妊娠 搾乳	空胎 搾乳	小計				
県 北	戸 35	戸 35	% 100.0	頭 475	頭 208	頭 144	頭 403	頭 912	頭 1,459	頭 2,142	頭 2,200	% 97.4	頭 61.2
県 中	63	71	88.7	312	139	167	355	884	1,406	1,857	1,838	101.0	29.5
浜	7	7	100.0	96	20	27	62	132	221	337	324	104.0	48.1
県 南	40	40	100.0	711	275	273	552	1,061	1,886	2,872	2,862	100.3	71.8
合 計	145	153	94.8	1,594	642	611	1,372	2,989	4,972	7,208	7,224	99.8	49.7

地 区	月 別 分 娩 予 定 頭 数								販 売 乳 量			
	令和3年 12月	令和4年 1 月	令和4年 2 月	令和4年 3 月	令和4年 4 月	令和4年 5 月	令和4年 6 月	生乳 出荷 戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
									1日当り	1日1戸 当り	搾乳牛	経産牛
県 北	頭 137	頭 106	頭 112	頭 101	頭 112	頭 99	頭 88	戸 30	kg 36,301	kg 1,210	kg 27.6	kg 24.9
県 中	101	121	77	78	64	69	151	63	30,376	482	24.5	21.6
浜	15	21	13	17	8	14	21	7	5,612	802	28.9	25.4
県 南	166	188	123	160	126	120	217	40	45,097	1,127	28.0	23.9
合 計	419	436	325	356	310	302	477	140	117,386	838	26.9	23.6

令和3年度受託乳量の状況

令和3年11月の受託乳量は、県全体で前年比102.7%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が3,515ト、前年比105.2%（対前年同174ト増）、全農県本部は1,500トの対前年比97.2%（対前年同月42ト減）の実績であ

りました。

東北生乳販連の受託販売実績については、前年比99.4%となりました。

なお、全国の受託実績は対前年比103.2%となりました。

令和3年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

東北全体の用途向け販売数量は、前年比で加工向けが116.0%、チーズ向けが102.7%と上回り、その他の飲用向けが96.6%、学校給食向けが97.1%、発酵乳向けが99.3%、生クリーム向けが90.0%と下回って推移しました。

引き続き、福島県産牛乳・乳製品の消費拡大にご協力をお願い致します。10月25日からヨークベニマル全

店で先行販売されている「酪王カフェオレプリン」ですが、11月1日より東日本地域のスーパーやコンビニエンスストアなどで販売しております。ぜひお買い求めいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、今月の酪王乳業の生乳使用量は日量平均47.8ト（前年比91.7%）で、本組合生産量の40.8%、県全体生産量の28.6%の処理量となりました。

令和3年度11月別支払乳価表

令和3年度の販売乳価は、全用途で前年度価格据え置きとなりました。

今月のプール乳価・補給金・集送乳調整金を含めた支払乳価は、前年より52銭6厘下回る単価となりました。

全国の新型コロナ感染者数が減ることが、人・物が今までとおり動き出し、経済も回復し、結果、牛乳・乳製品の消費回復と乳価が上がるにつながっていきます。一部都道府県で実施されていた緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置については、9月30日をもって終了となっております。しかし、東京都内での新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」感染者の濃厚接触者が急増している状況もあり、まだまだ油断できない日々が続いております。感染症対策を徹底し、皆さんで新型コロナが終息するまで頑張りましょう。医療従事者皆様のご苦労については感謝申し上げます。

■東北全体プール乳代金 4,140,895千円 単価110.499円

■内 福島県分プール乳代金① 488,269千円 単価110.499円

プール対象外乳代金② 87,736千円

(学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 576,006千円 単価114.857円

項 目	令和3年11月	前年同月	増 減	前々年同月
プール乳価	111円300	111円956	-0円656	111円943
補給金単価	0円776	0円681	0円095	0円663
集送乳調整金単価	0円243	0円208	0円035	0円198
合 計	112円319	112円845	-0円526	112円804

(注) 上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

(東北全体11月)

用 途 別	販売乳量 (トン)	日 量 (トン)	前年比 (%)	シェア (%)	前年度 シェア
飲用向け	27,506	917.0	96.6	68.6	69.7
加工向け	2,972	99.0	116.0	7.4	6.3
学校給食向け	2,623	87.0	97.1	6.5	6.6
醗酵乳向け	6,224	207.0	99.3	15.5	15.3
生クリーム向け	623	21.0	90.0	1.6	1.7
チーズ向け	149	5.0	102.7	0.4	0.4
合 計	40,098	1,336.0	98.1	100.0	100.0

備考 1) 買取乳量を除く

団体別受託乳量の状況

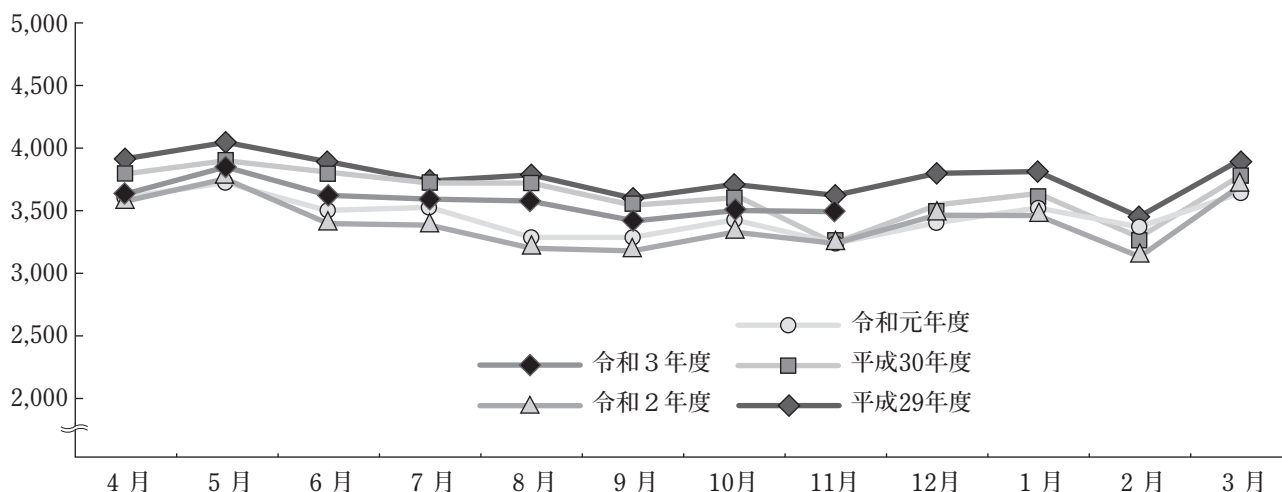
北海道：104.4%、都府県：101.6%

団 体 名	11 月 分		
	受託乳量 (トン)	日 量 (トン)	前年比 (%)
県 酪 協	3,515	117.2	105.2
全農福島県本部	1,500	50.0	97.2
合 計	5,015	167.2	102.7
東北生乳販連	40,098	1,336.6	99.4
全 国	582,073	19,402.4	103.2

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
29年度	3,958	4,132	3,940	3,880	3,778	3,622	3,740	3,637	3,797	3,820	3,498	3,948	45,750
30年度	3,865	3,927	3,768	3,758	3,757	3,565	3,617	3,385	3,572	3,687	3,369	3,818	44,091
令和元年度	3,661	3,736	3,526	3,528	3,380	3,391	3,495	3,349	3,477	3,589	3,442	3,735	42,310
令和2年度	3,642	3,739	3,495	3,482	3,363	3,310	3,458	3,341	3,505	3,549	3,268	3,723	41,874
令和3年度	3,693	3,859	3,629	3,599	3,564	3,486	3,578	3,515					
前年比%	101.4	103.2	103.8	103.4	106.0	105.3	103.5	105.2					

単位・トン



年次別・月別支払乳価一覧（補給金・集送乳調整金を含む）

年 度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	平均
令和3年度	110.502	111.609	113.060	111.724	110.197	112.507	112.537	112.319					
令和2年度	108.959	110.268	113.694	113.625	112.257	114.269	113.489	112.845	111.265	111.109	112.190	109.876	111.986
令和元年度	107.825	109.442	110.235	109.707	109.001	110.834	113.758	112.804	110.935	111.470	112.026	108.238	110.523
30年度	105.316	106.566	107.245	106.734	104.684	108.041	107.673	107.183	104.902	105.545	106.664	104.358	106.242
29年度	105.107	106.247	107.367	106.918	104.637	107.789	107.187	107.002	104.876	105.603	106.317	104.647	106.141

第314回 県酪協乳牛市場成績

令和3年12月13日開催

購買者数 25名（うち県外 13名）

区分	畜種	雌雄	成 立 数 (成 立 率)	最 高 価 格 最 低 価 格	平 均 価 格 (前 回 比)	平 均 体 重 (前 回 比)	平 均 単 価 (前 回 比)
ET和牛 初生牛	ET和牛	メス	6 (100)	496,000 416,000	469,333 (143)	103 (123)	4,557 (116)
		雄	11 (92)	571,000 225,000	488,091 (108)	102 (96)	4,764 (112)
	乳 牛	メス	3 (100)	22,000 1,000	12,667 (83)	53 (84)	241 (98)
		雄	78 (100)	157,000 18,000	100,103 (104)	72 (103)	1,399 (102)
	交 雑 牛	メス	89 (100)	252,000 72,000	147,483 (86)	72 (99)	2,044 (88)
		雄	102 (100)	364,000 26,000	166,500 (90)	80 (107)	2,082 (84)

価格：円（落札価格） 率・比：％ 体重：kg

初生牛の畜種毎価格帯別分布表 （0は0.1～0.9万円、1は1.0～1.9万円、以下同様。尚、落札価格です。）

畜 種	雌雄	価 格 帯 (万円)																											
		<33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58		
ET和牛	メス									1						3	1	1											
	雄	1								1				1					2	1	1			3		1			
畜 種	雌雄	価 格 帯 (万円)																											
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
乳 牛	メス		1	1	1																								
	雄			1	1		3	2	6	9	12	9	4	2	7	12	5	5											
畜 種	雌雄	価 格 帯 (万円)																											
		<3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	~	36		
交雑牛	メス					2	1	3	6	7	8	11	5	13	6	12	10	1	2	1				1					
	雄	2			1	1		1		1	2	4	5	21	27	15	6	3	4		1	3	1	2	1		1		

組 合 の 動 き 12 月

12月1日	辞令交付式	12月10日	本所増築事務所竣工式
12月1日	県内JA総務・企画担当部課長会議	12月13日	乳牛せり市場
12月2日	宗像実氏農業賞祝賀会	12月14日	生乳委託者委員会
12月7日	福島県牛乳普及協会幹事会・事業説明会	12月15日	東北生乳販連第1回臨時総会
12月7日	酪王協同乳業(株)取締役会	12月16日	県中地区運営委員会
12月8日	生乳委託者委員会幹事会	12月17日	東北生乳販連事業推進委員会
12月8日	県北地区運営委員会	12月17日	辞令交付式
12月9日	県南地区運営委員会	12月22日	第9回理事会
12月9日	福島県獣医師会理事会	12月28日	経営検討会

理 事 会

第9回 令和3年12月22日

議 案

報告事項

議案第1号 東北地域乳質基準設置要領の改正に伴う令和4年度乳価構成テーブルと細菌数・体細胞数の乳質格差及び自主規制実施要領の改正について

- 1) 畜産環境リースの貸付申請について
- 2) 令和3年度職員異動等について
- 3) 今後の日程について

令和3年度 異動等辞令交付

◆退職者

令和3年12月17日付

氏 名	事 由	所 属
川 村 宏 太	依 願 退 職	生産部購買畜産課

◆新採用

令和3年12月1日付

職 位	氏 名	新 任
嘱託職員	飛 知 和 龍 太	生産部購買畜産課哺育センター



♪夢を叶える幸せミルク♪の 中瀬牧場

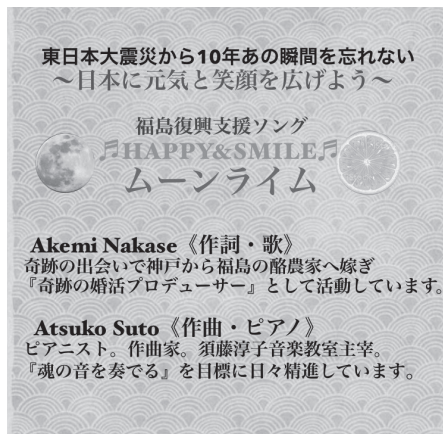
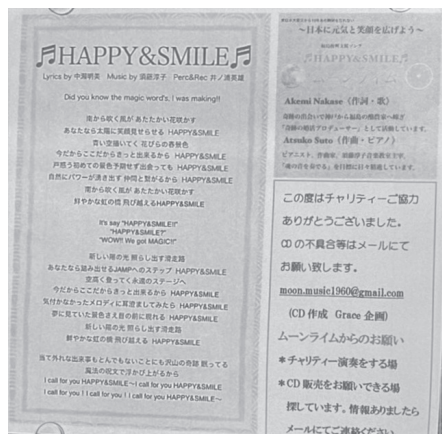


私が酪農家に嫁いで15年という区切りの年だったからでしょうか？昨年は大きな変化の一年でした。

その中でも一際大きな事は、娘が岩瀬農業高校を卒業し、後継者としての第一歩を踏み出した事でした。一日一日の成長が目まぐるしく感じられるほどで、仕事の一つ一つに自覚や自信を持っていく姿がとても頼もしく、家族としても大きく成長でき、夢のような幸せを本当に味わい実感することができました。

そして、もう一つの大きな出来事は、東日本大震災から10年…私の故郷、大阪の友人たちからの復興支援曲のアンコールが届き、復興支援のチャリティーCDを制作することになりました！私が10年前に作った『HAPPY & SMILE』と言う、全ての人が明るい笑顔になるようにと、心から応援の言葉を大切に紡いで作った歌が、10年の時を経てCDにすることが出来ました！酪農婦人が歌う！と言うことで、HAPPY&SMILE 発表イベント会場での販売ブースでは酪王牛乳サブレ、酪王牛乳ラスクや酪王カフェオレラスクを可愛く詰め合わせにして販売したところ、大好評で、酪王製品のとても良い宣伝にもなりました！

これからも、東日本大震災復興支援活動が続けて行くことの大切さを担うと共に、酪農の未来、福島の未来、酪農を通じて日本に元気と笑顔を広げよう！をモットーに安全安心な牛乳を作り続け、歌い続け、全ての人が明るい笑顔になるように！♪夢を叶える幸せミルク♪で応援し続けます！



福島県牛乳普及協会
令和2年度
牛乳・乳製品利用料理コンクール
福島県大会入賞レシピ



福島県立喜多方東高等学校
堺 愛純さんの作品

「みそかんぷら」を使った甘じょっぱいグラタン



●●● 材 料 ●●●

(材料：4人分)

みそかんぷら	ホワイトソース
・じゃがいも……………4個	・牛乳……………600ml
☆砂糖……………小さじ3	・コンソメ……………小さじ2
☆味噌……………40g	・小麦粉……………30g
☆酒……………100ml	・バター……………40g
・油… フライパンひたひたに	☆ベーコン……………4枚
	・ピザ用チーズ……………120g
	・乾燥パセリ……………適量

●作り方

① みそかんぷらを作る

じゃがいもを一口大に切り、ラップをしレンジで温め、油で揚げる。

あげたじゃがいもを☆と一緒にフライパンでいためる。(ベーコンは味を洋風にするために入れています。)

② ホワイトソースを作る

③ グラタン皿に①を入れ、ホワイトソースをかけ、チーズはお好みの量をのせてチーズがこんがりするまで焼く。(200度で10分程度)

ポイント

福島の伝統料理である「みそかんぷら」のうま味を生かし、甘じょっぱいグラタンにした所です。

『特派員 報告』大募集

毎月、県内各地の情報を皆さまから提供いただき、共有していきたいと思います。
ちょっとした出来事、地域にあるお店の紹介などなど情報提供をお願いします。

連絡先

E-mail : miura@fukuraku.or.jp ・ h-nemoto@fukuraku.or.jp

F A X : 0243-33-1103



『ほっとMilk』投稿募集について

1. テーマは自由 (ほっと(∩o∩)する話題がいいですね)
◎文章だけでも結構です。
◎写真があると最高です。
2. 受付 (常時受け付けしています)
メール・FAX・事務所経由・直接持参、何でもOKです。
E-mail : miura@fukuraku.or.jp ・ h-nemoto@fukuraku.or.jp
F A X : 0243-33-1103

発行者 福島県酪農業協同組合 発行責任者 常務理事 佐藤 幸光

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里塚17番地 TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103 URL <http://www.milk.fukushima.jp>